１．構想策定に当たって

1.1　構想策定の目的

北地区では、平成１５年度から平成１６年度にかけて「まちづくり特別委員会」において「どのようなまちにするか」について検討・整理を行い、平成16年度に「北地区のまちづくり構想～四季と歴史と子どもが奏でるまち～」をとりまとめ、地域によるまちづくりを推進してきました。

しかし、平成１７年の台風１４号に伴う災害危険区域の指定や、近年のまちづくりを巡る環境が、人口の増加を前提としたものから、持続可能・集約型の都市構造を目指すものに移行するなど、大きく変化しております。

このような社会背景を受けて、北地区では、平成２４年度に『北地区まちづくり構想「地域魅力発信プラン」策定委員会』を組織し、本地区におけるまちづくりの方向性について見直しを検討しました。

北地区では、宮崎市都市計画マスタープランに位置付けられている集落拠点区域を中心に、生活、産業、環境、福祉、スポーツ、文化等の面から地区全体の活性化を図ることを目指しています。

このため、北地区まちづくり構想「地域魅力発信プラン」策定委員会において、住民による「まちづくり構想」を策定し、地区住民みんなで明るく住みよいまちづくりに向けて取り組みます。

まちづくり構想は、土地利用のみならず、北地区のまちづくりの指針（まちづくり活動の道しるべ）となるよう、まちの将来像やまちづくり全体の今後の方向性等について取りまとめています。

このまちづくり構想に基づき、地区住民自らがまちづくりに取り組む一方、市や関係機関に働きかけ、土地利用規制や基盤整備といった行政が担う施策の今後の方向性についても検討してもらうことで、地区住民と行政が協働できるまちづくりを進めます。

西部地区農村環境改善センター

1.2　対象地区

本構想対象地区は、宮崎市街地の北西部に位置する北地区とします。
重点区域として、集落拠点区域を選定しています。

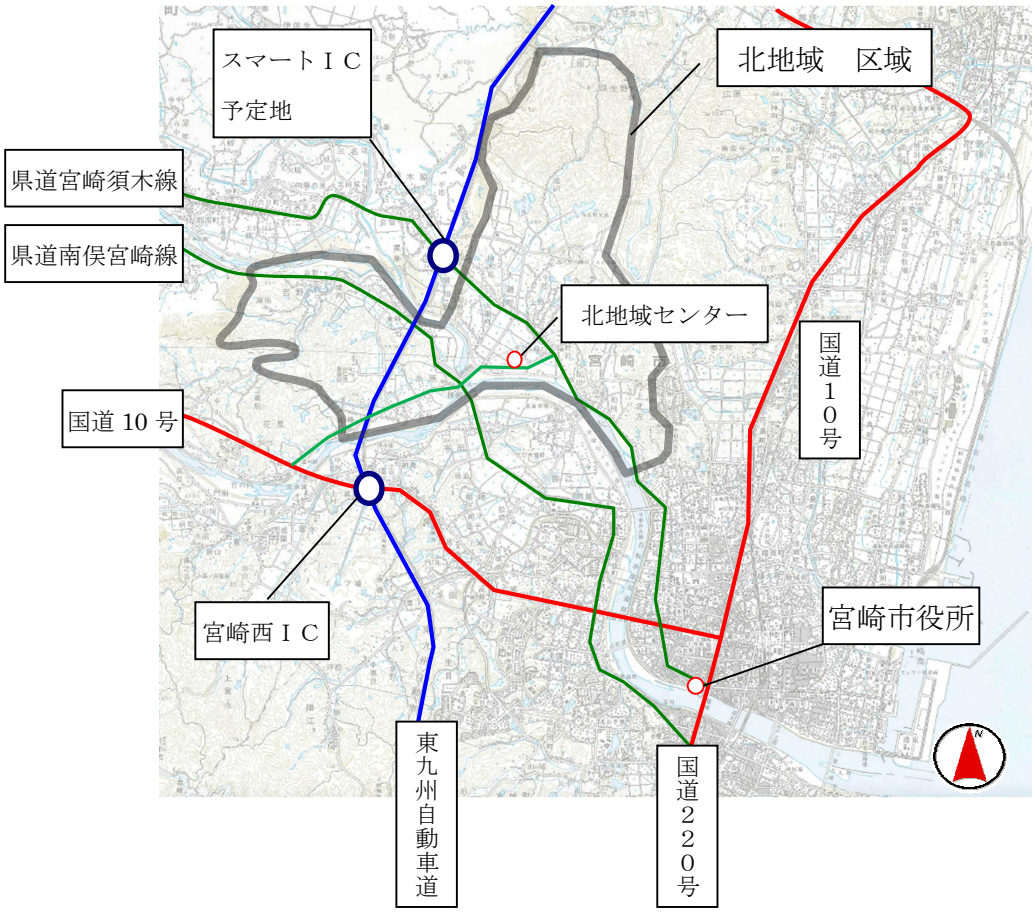


図 1-1　調査対象地区

北地区のシンボル：左から「垂水公園の桜」、「瓜生野八幡神社クスノキ群」、「倉岡小学校のシロバナフジ」

1.3　構想策定方法

平成２４年度に北地域自治区地域協議会の下部組織として、北地区まちづくり構想「地域魅力発信プラン」策定委員会を組織し、当地区の将来ビジョンとなる「北地区まちづくり構想」の策定を進めてきました。

まず最初に住民の生活環境等に対する意識や将来のまちづくりに対する意向を把握するため、住民アンケートを実施しました。

次にそれらの意見から、地域住民の意見をKIT-PT法※　により図化する作業を通じて住民が求めるまちづくりの方向性を集約し、「北地区のまちづくり構想」としてまとめました。

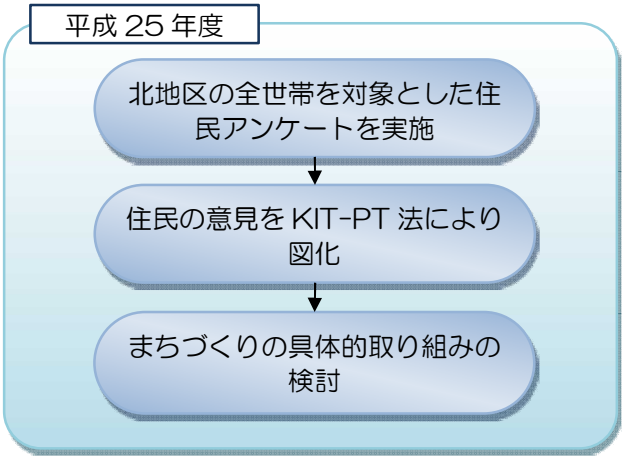


図１-2　構想策定方法

※KIT-PT法・・・複雑多様な住民の意見（ミーズ）から多くの住民が共感できる政策（ニーズ）を見出すもの。カード（K）を用いて意見（I）を積み上げ（T）政策の優先順位を樹木のように表現する手法。

2．北地区の現況と課題

2.1　北地区全体の現況と特性

○　北地区は、宮崎市街地の北西部に位置し、県道宮崎須木線、県道南俣宮崎線、東九州自動車道が貫通しており、道路、下水道等の公共インフラは整ってきていますが、公共交通の利便性は比較的悪い地区です。

○　地区面積は27.52km^{2}であり、宮崎市総面積644.61km^{2}の約4.2%を占めています。地区の大半が都市計画区域に指定され、そのほとんどが市街化を抑制する市街化調整区域となっています。

○　糸原、金崎、堤内及び吉野の倉岡地区、瓜生野、大瀬町及び上北方の瓜生野地区合わせて7つの大字で構成され、地区人口は平成25年4月現在6,804人となっています。人口は減少傾向にあり、65歳以上の高齢化率は30.0%と宮崎市全体約22.8%と比較し高齢化が進行している地域といえます。

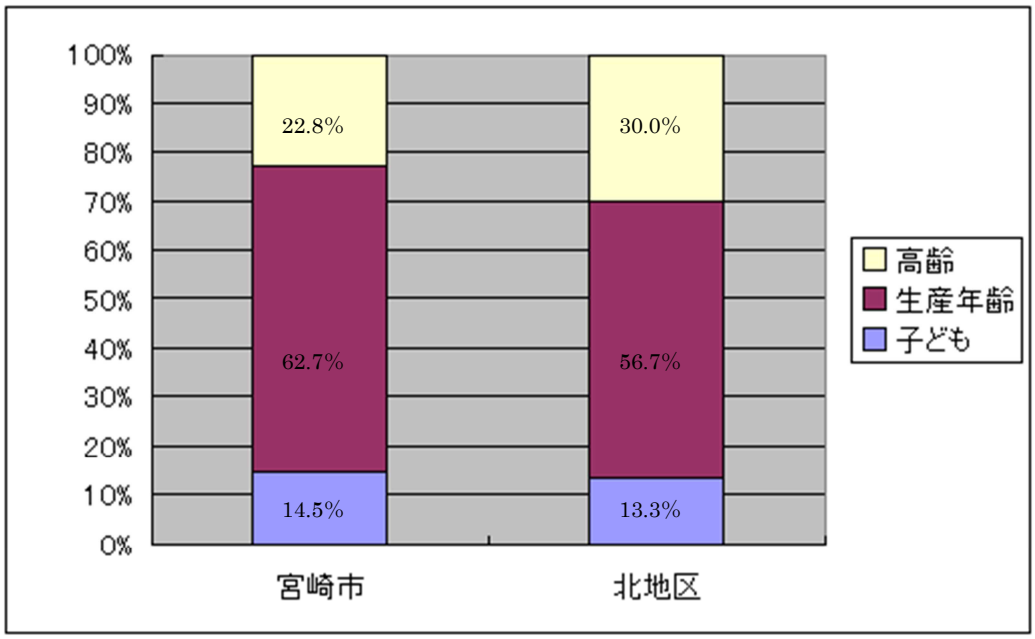


図 2-1　宮崎市と北地区の人口構成比較

※高齢　　65 歳以上
生産年齢　15～64 歳
子ども　　14 歳以下

○　地区内には、倉岡神社や王楽寺などの神社仏閣や金剛寺文書など歴史が育んだ資産があり、また伝承芸能（倉岡神社獅子舞・ハレハレ、糸原棒踊り、上北方なぎなた踊り、上畑神楽）もあるが、保存する担い手が少なくなっています。

○　樹林地、水辺などの良好な自然環境や田園を有し、美しい自然にあふれています。

○　地区の祭りやイベントは、瓜生野八幡神社の秋祭り、倉岡神社の秋祭りなど伝統的なものから、北地区ふるさと祭り、桜の名所として有名な垂水公園、地区住民の交流や地域の活性化を目的としたものが開催されています。

○　農業では「米どころ」として稲作が盛んで、その他には畜産業なども盛んです。

○　公立の教育施設は、糸原地区に倉岡幼稚園、倉岡小学校、瓜生野地区には、瓜生野小学校及び宮崎北中学校があります。小中学校の児童・生徒数は、減少傾向にあります。

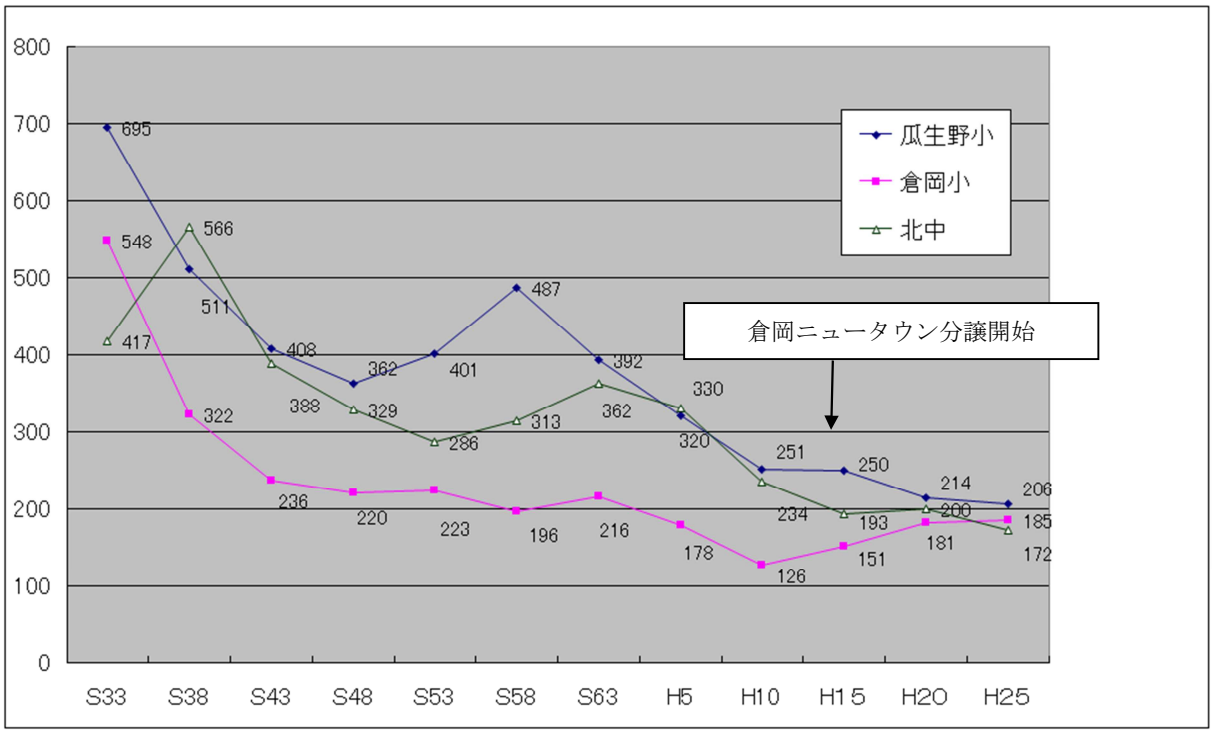


図 2-2　北地区の児童・生徒数の推移

		昭和33年	平成25年	昭和33年を100としたときの指数
小学生	市全体	23,551	17,612	75
	北地区	1,243	391	31
中学生	市全体	7,910	8,088	102
	北地区	417	172	41

図 2-3　宮崎市全体と北地区の児童・生徒数の比較

2.2　瓜生野地区の集落拠点区域の現況と特性

○　北地区には集落拠点区域が瓜生野地区と倉岡地区の２箇所ありますが、瓜生野地区は教育施設、商業施設、住宅地が集積する北地区の中心地で、地域センターなどの行政サービス施設はこの２地区の間に位置しています。

○　区域の大半が住宅地や事務所・店舗等の宅地です。それらの宅地は、県道宮崎須木線沿線から北側に分布しており、北側の住宅地は傾斜のある丘陵地であることが特徴的です。

○　区域の南側と西側は、平成１７年の台風１４号の浸水被害により災害危険区域に指定されており、建築に制限がかけられています。

○　区域の南側と西側は、農地転用が困難な農業振興地域の水田が広がっており、農地としての基盤整備は完了しています。

○　県道宮崎須木線は、車道の整備は良好で、歩道も整備が進んでいます。生活道路は、幅員4m～6mの道路が多く、側溝の整備は比較的良好です。

○　バス路線は宮崎市街地と綾・国富を結ぶ主要幹線道路である県道宮崎須木線を通る路線があり、便数は片道４６便と比較的多いですが、日常の買い物・通院など北地区内での移動に問題を抱えています。

瓜生野地区集落拠点区域

2.3　倉岡地区の集落拠点区域の現況と特性

○　倉岡地区は、教育施設、物流工業地区、住宅地が集積する地域です。

○　区域の大半が住宅地や事務所・店舗等の宅地です。それらの宅地は、県道南俣宮崎線の南西側に分布しており、比較的平らな土地が広がっています。また区域には一般住宅地区、商業・業務地区、業務地区を含む倉岡ニュータウンが隣接しています。

○　区域の周囲は、農地転用が困難な農業振興地域の水田が広がっており、農地としての基盤整備は完了しています。

○　県道南俣宮崎線は、道路の整備は良好です。生活道路は、幅員4m～6mの道路が多く、側溝の整備は比較的良好です。

○　区域内を運行する路線バスは無く、北地区コミュニティバス運行協議会がコミュニティバスを隔日運行で１日１３便運行していますが、日常の買い物など北地区内での移動や地区外への移動に大きな問題を抱えています。

倉岡地区集落拠点区域

2.4　地区の問題点と課題

（1）北地区全体の課題

○　北地区は、宮崎市街地から約７キロの位置に地区の中心である瓜生野地区が位置しており、市街地への主な交通手段は自家用車に依存しています。自然環境は森林や豊かな農村地域を形成しており、また、市街化調整区域として市街化が抑制されてきました。

○　約6,８００人の地区内の現住人口は３０年後には約３０％減少し、約5,０００人となることが見込まれ、また人口に占める高齢者の割合も３０.０％から３５.４％となることが推計されるる中、地域活力の低下が懸念されます。高齢化に伴う移動手段の問題として、車の運転ができなくなった高齢者の買い物・通院など日常生活の維持が不安視され、また生産年齢人口の減少による耕作放棄地等の低・未利用地の増加が懸念されるなど、コミュニティの維持確保についても困難な状況が予想されます。

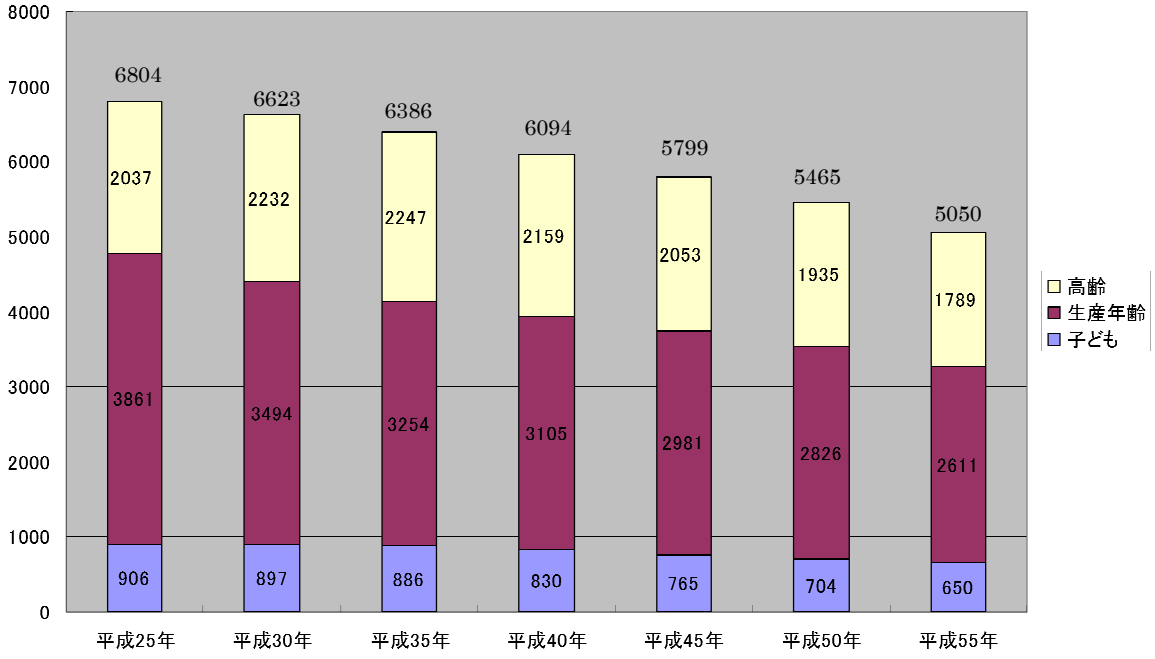


図 2-4　北地区の人口予測

※ｺｰﾎｰﾄ要因法による

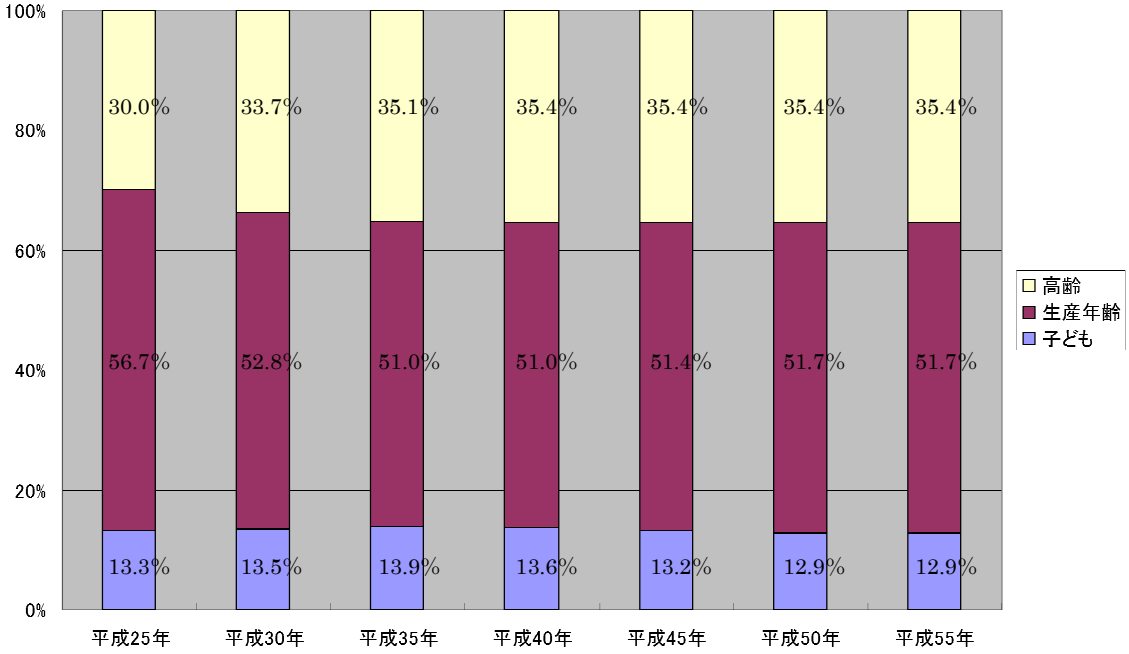


図 2-5　北地区の年齢構成予測

※ｺｰﾎｰﾄ要因法による

○　一方、問題点ばかりでなく、地区の優位性もあります。国指定重要文化財である「王楽寺の木造薬師如来及び両脇侍像」や国指定天然記念物である「瓜生野八幡神社のクスノキ群」など歴史・自然の資源があります。また、今後の東九州自動車道の整備進捗やスマートインターチェンジの新設に伴い、人や物の流れの変化や活性化が予想されます。また、県道宮崎須木線の交通量は（２万台／日）近くあり、通過交通は多いため潜在的な魅力のある地区です。

○　したがって、これからの北地区のまちづくりは、田園環境を保全しつつ、市街化調整区域の秩序ある土地利用を行う一方、集落の空き地や空き家に地区出身者が帰ってくることのできる環境づくりや、新たな人が空き地や空き家に居住し新たな地域の活力が生まれるような、集落の良好な住環境の確保、コミュニティの形成に努めることが必要です。また、地区の優位性や資源を活かしたハード及びソフトの施策に取り組み、地区の再生・活性化を図ることが必要です。

○　このようなことから、地域特性等を踏まえた北地区のまちづくりや活性化の方向性は、「みんなが参加できる」、「みんなが住める」、「子どもたちの笑い声が聞こえる」、「公共交通の充実した」、「災害に強い」、「歴史・自然資源を活かした」が考えられます。また、まちづくりを進める上で重要なキーワードとして、若者を含むみんなが参加する「住民参加」が重要となります。

以下に、まちづくりの方向性に対応した課題を示します。

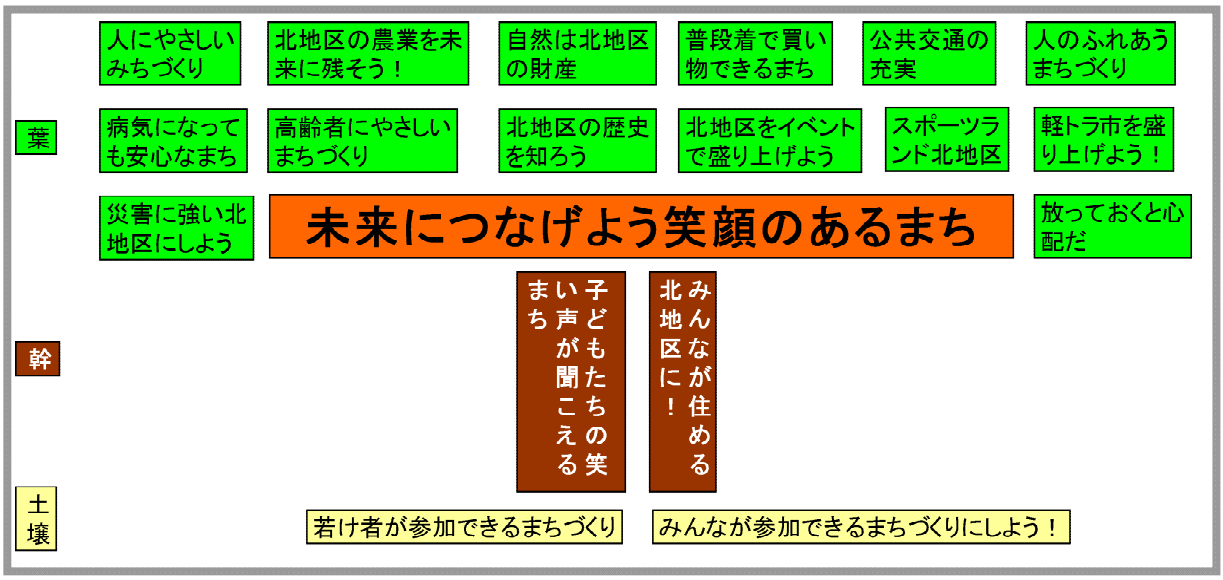


図 2-6　KIT-PT 法による住民意見の概要図

※P23 の KIT-PT 法により住民意見を図化したものの概要図

表 2-1　北地区全体のまちづくりの課題と解決策

方向性	現況と問題点・解決策
全員参加	【現況と問題点】 ・まちづくりを進める上で、若者を含むみんなが参加する「住民参加」が重要ですが、現状は若者の参加がほとんどない状況です。 【解決策】 ・地区住民主導のコミュニティ活動の充実（人のふれあうまちづくり） ・一芸一技術に秀でた人材の活用と地域リーダーの育成（若け者が参加できるまちづくり、みんなが参加できるまちづくりにしよう！） ・地区内外の市民の交流や活性化を目的としたイベントや軽トラ市の充実（北地区をイベントで盛り上げよう、軽トラ市を盛り上げよう！、スポーツランド北地区）
住みよい	【現況と問題点】 ・地区の大半が都市計画区域に指定され、そのほとんどが市街化を抑制する市街化調整区域となっています。 ・人口は減少傾向にあり、６５歳以上の高齢化率は３０.０％と宮崎市全体約２２.８％と比較し高齢化が進行している地域といえます。 ・高齢化に伴う問題としては、移動手段の問題として、買い物や病院など日常生活の維持が困難になり、生産年齢人口の減少による耕作放棄地等の低・未利用地の増加が懸念され、コミュニティの維持確保も困難な状況が予想されるなどの問題を抱えています。 【解決策】 ・地区外から新しい住民が移り住むための、集落拠点地区における新たな居住地区の創出（みんなが住める北地区に！）→（都市計画提案制度を活用した地区計画による開発） ・新規就農者の受け入れ態勢の整備（空き家や未利用地の活用）や担い手の育成（北地区の農業を未来に残そう！） ・高齢者が通院や買い物を不便なく行える交通環境の充実（公共交通の充実）
笑顔のある	【現況と問題点】 ・公立の教育施設は、糸原地区に倉岡幼稚園、倉岡小学校、瓜生野地区に瓜生野小学校及

笑顔のある	び宮崎北中学校がありますが、幼稚園・小中学校の児童・生徒数は少子化に伴い減少傾向にあります。 【解決策】 ・小中学生の自然体験学習を通じた環境教育の推進（子どもたちの笑い声が聞こえるまち） ・地域住民が気軽に集える公園や広場など憩いの空間整備（子どもたちの笑い声が聞こえるまち） ・子どもの安全・安心を確保するための見守り活動の充実（子どもたちの笑い声が聞こえるまち） ・小中学校の空き教室や施設を利活用した地域住民との交流（子どもたちの笑い声が聞こえるまち） ・核家族化が進む中、安心して子育てができる環境づくりの支援（子どもたちの笑い声が聞こえるまち）
交通の充実	【現況と問題点】 ・北地区は、宮崎市街地の北西部に位置し、県道宮崎須木線、県道南俣宮崎線、東九州自動車道が貫通しており、道路、下水道等の公共インフラは整ってきていますが、公共交通の利便性は比較的悪く、主な交通手段は自家用車に依存しています。 ・今後の東九州自動車道の整備進捗やスマートインターチェンジの新設や（仮称）宮王丸橋架橋に伴い、人や物の流れの変化や活性化が予想されます。 ・県道宮崎須木線の交通量は（２万台／日）近くあり、通過交通は多いため潜在的な魅力のある地区です。 【解決策】 ・コミュニティバスの充実等による子どもや高齢者等の交通弱者の足の確保（公共交通の充実） ・高齢者にもやさしい買い物環境の整備（普段着で買い物できるまち） ・子どもや高齢者に配慮した歩道の整備（人にやさしいみちづくり）
災害に強い	【現況と問題点】 ・北地区では、平成 17 年の台風１４号により複数の災害危険区域が設定されています。 ・排水ポンプ場や堤防は整備されました。 【解決策】 ・災害危険箇所の整備充実と防災体制の充実（災害に強い北地区にしよう） ・災害時要救護者の支援体制づくり（災害に強い北地区にしよう）
歴史・自然を活かす	【現況と問題点】 ・地区内には、国指定重要文化財である「王楽寺の木造薬師如来及び両脇侍像」や国指定天然記念物である「瓜生野八幡神社のクスノキ群」など歴史・自然の資源があります。 ・伝承芸能（倉岡神社獅子舞・ハレハレ、糸原棒踊り、上北方なぎなた踊り、上畑神楽）もあるが、保存する担い手が少なくなっています。 ・樹林地、水辺などの良好な自然環境や田園を有し、美しい自然にあふれています。 ・地区の祭りやイベントは、瓜生野八幡神社の秋祭り、倉岡神社の秋祭りなど伝統的なものから、北地区ふるさと祭りなど地区住民の交流や地域の活性化を目的としたものが開催されています。 【解決策】 ・田園風景の保全（自然は北地区の財産） ・シンボルとなる社寺林、周辺緑地等の保全（北地区の歴史を知ろう） ・屋敷林、生垣、沿道修景等の緑と花のまちづくり ・河川・ため池・水路の水質保全と親水化（北地区の農業を未来に残そう） ・希少な植物及び植物群落の保護（自然は北地区の財産） ・社寺、史跡等の歴史資源のネットワークづくりと地区内外での情報提供（北地区の歴史を知ろう） ・民俗芸能や伝統的祭りの保存・継承（北地区の歴史を知ろう）

（2）瓜生野地区の集落拠点区域の課題

○　瓜生野地区は、周辺の自然環境は森林や豊かな農村地域を形成しており、また、市街化調整区域として市街化が抑制されてきました。宮崎市都市計画マスタープランでは集落拠点に位置付けられており、宮崎市土地利用誘導基準では地区計画を通じて住宅系開発が可能な区域となっています。

○　宮崎市街地からは離れており、市街地への主な交通手段は自家用車に依存しています。教育施設は充実しており、最小限の生活利便施設（商業施設・医療施設）は整っています。しかし、市街化調整区域内ですので、許可条件に適合しなければ地区内外の住民が住宅を建築することは原則できません。

○　地区外の人が住宅を建築できるようにするためには、地区計画の導入により開発行為を行うことになりますが、一体的な面的整備が必要で、地元（民間）主体で取り組まなければならないなどの要件をクリアすることが必要です。

○　県道宮崎須木線の沿線は事務所・店舗が立地しており、高齢者に配慮した日用品の買い物ができる環境を保持していくことが必要です。

（3）倉岡地区の集落拠点区域の課題

○　倉岡地区は、周辺の自然環境は森林や豊かな農村地域を形成しており、また、市街化調整区域として市街化が抑制されてきました。宮崎市都市計画マスタープランでは集落拠点に位置付けられており、宮崎市土地利用誘導基準では地区計画を通じて住宅系開発が可能な区域となっています。

○　宮崎市街地からは離れており、市街地への主な交通手段は自家用車に依存しています。教育施設は充実していますが、市街化調整区域内ですので、許可条件に適合しなければ地区内外の住民が住宅を建築することは原則できません。

○　地区外の人が住宅を建築できるようにするためには、地区計画の手続きを通じて開発行為を行うことになりますが、一体的な面的整備が必要で、地元（民間）主体で取り組まなければならないなどの要件をクリアすることが必要です。

○　地区内には日常生活に必要なものを充足するだけの店舗がないため、移動販売など何らかの手段により、高齢者に配慮した日用品の買い物などができる環境を作ることが必要です。

３．地区住民の意識と意向

3.1　意向調査概要

住民の生活環境等に対する意識や将来のまちづくりに対する意向を把握するため、平成２５年度に住民及び宮崎北中生徒を対象にアンケート調査を実施しました。

表 3-1　アンケート調査の概要

	住民アンケート	中学生アンケート
配布対象	自治会に加入する全世帯の世帯主	宮崎北中学校の生徒
配 布 数	２１２３件	１６５名
回 収 数	１７０９件（回収率８０.５％）	１６５名
調査方法	自治会を通じて配布し各班長が回収	学校を通じて配布し回収
調査期間	平成２５年６月～７月	平成２５年６月～７月

3.2　調査結果

（１）住民アンケート調査のまとめ

○　今回のアンケート調査は、世帯配布していることもあり、回答者の３分の２が60 歳以上であることから、高齢者の意見が大いに反映された結果となっています。また、北地区は広範囲に及ぶため、居住地での地形や交通等の条件が異なり、生活環境に対する意識に差が見られました。

○　アンケート結果では、居住意向は比較的高いものの、商店が少ない、公共交通機関が不十分等により、買い物や病院等に行くのに不便であるとの意見が多く見られました。また、交通環境の充実、災害に対する安全性の確保や高齢社会に対応した福祉環境の充実が強く求められています。

○　一方、北地域センター周辺での開発を望む声もありました。

○　自由意見では、人口増や地域発展等のための市街化区域等線引きの見直しや開発、良好なコミュニティの形成、子どもの安全な遊び場の整備、公共交通の強化、買い物利便性の向上などに、多くの意見・要望があがっており、とりわけ、まちづくりに若者の参加を求める意見が多くあるなど、まちづくりに対する関心の高さが感じられました。

以下に、調査結果概要を示します。詳細は、平成２５年度調査報告書に示しています。

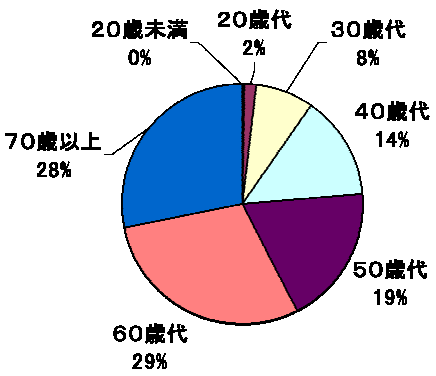
①回答者の属性

回答者の居住地

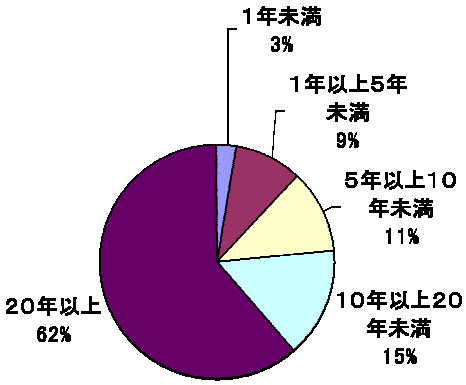
（単位：人）

上北方	96	柿木原	115	糸原	327
柏田	52	平松	81	柳瀬	94
野首竹原田	41	浦田	32	倉岡ニュータウン	99
千代ヶ崎	91	上畑	9	金崎	124
上村	41	下畑	9	堤内	16
上野	201	垂水	1	吉野	57
大瀬町	123	新町	95	六反田	46

回答者の年齢



回答者の居住年数



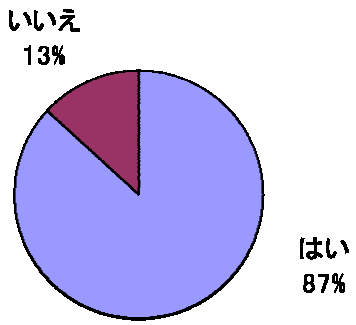
②回答者の居住意向とその理由について

○　これからも北地区に住み続けたいかをお聞きしたところ、約９割の方が「住み続けたい」と回答しており、居住意向は高いようです。

○　「住み続けたい」理由は、「生まれ故郷又は地元に愛着」が最も多く、次いで「緑が多く自然環境が良い」、「近所づきあいがしやすい」が続いています。

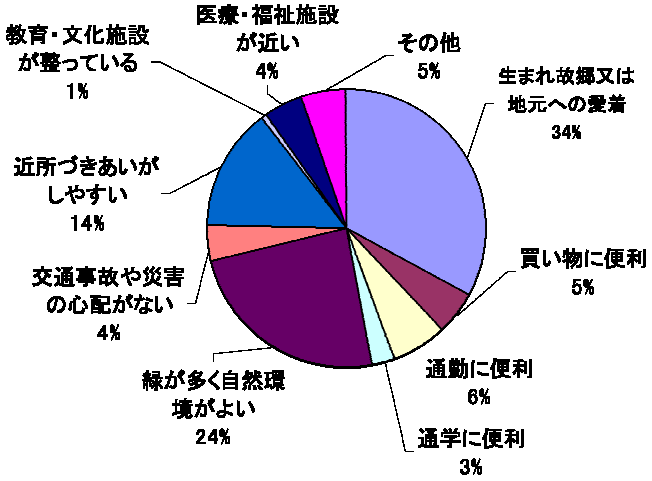
○　一方、「住み続けたくない」理由は、「買い物に不便」が４分の１を占め、最も多くなっています。

居住意向



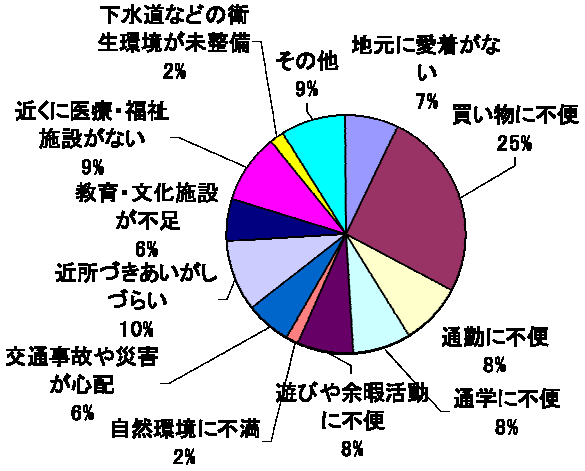
住み続けたい理由

※回答は２つまで



住み続けたくない理由

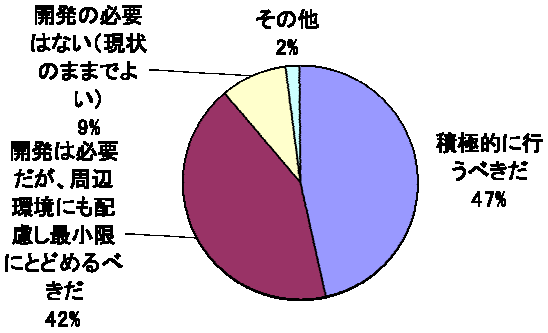
※回答は２つまで



③今後の土地利用について

○　今後、居住人口の増加を図り、地域を活性化させるための宅地開発を誘導する必要性についてお聞きしたところ、約半数の方が積極的な開発を望んでおり、約４割の方が周辺環境に配慮した最小限の開発を望んでいます。

宅地開発の意向



④居住周辺の生活環境に対する満足度及び重要度について

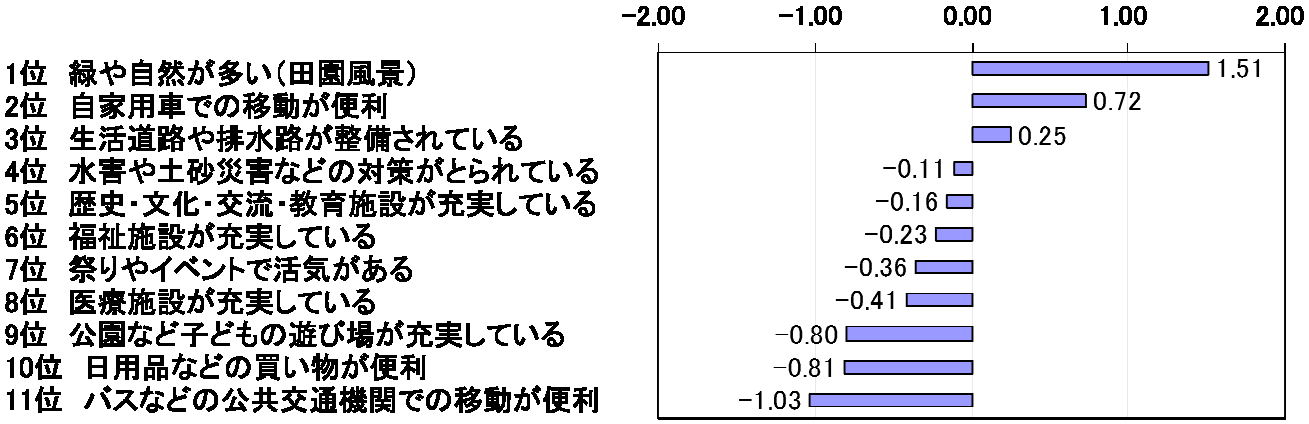
○　生活環境 11 項目の満足度及び重要度を５段階評価でお聞きしています。それぞれの回答に点数をつけて、評価点を算出し各項目を比較しています。

○　満足度の高いものは「自然」、「自家用車での移動」であり、反対に低いものは「公共交通機関」、「買い物」、「子どもの遊び場」で不満度を示しています。

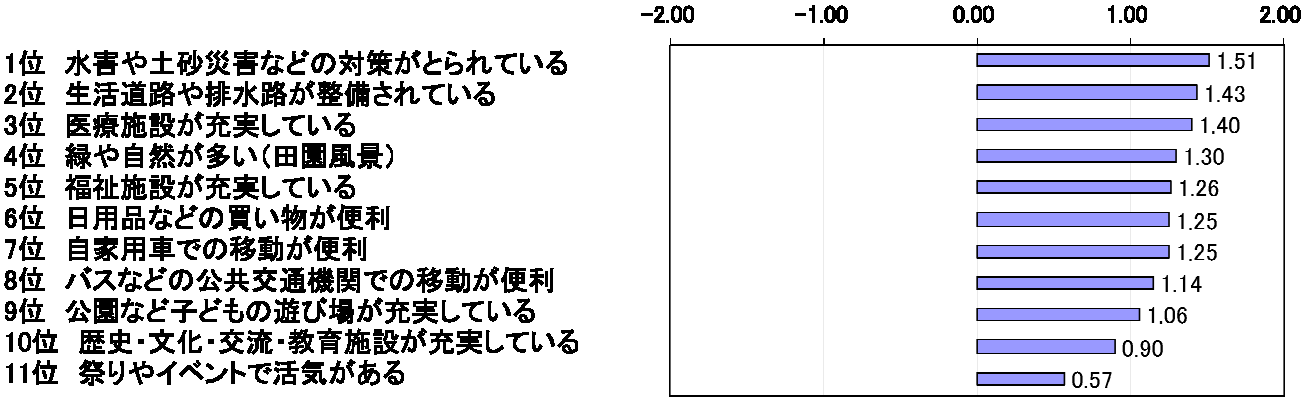
○　重要度は全ての項目で０以上示し、地区住民はどの項目も重要だと感じていることがうかがえます。「災害」、「生活道路等の整備」、「医療施設」が上位にあがっています。

○　満足度と重要度の関係を分析すると、満足度が低く、重要度が高い領域にある「最優先で改善しなければならない重要改善項目」としては、「公共交通機関」、「買い物環境の充実」があげられます。

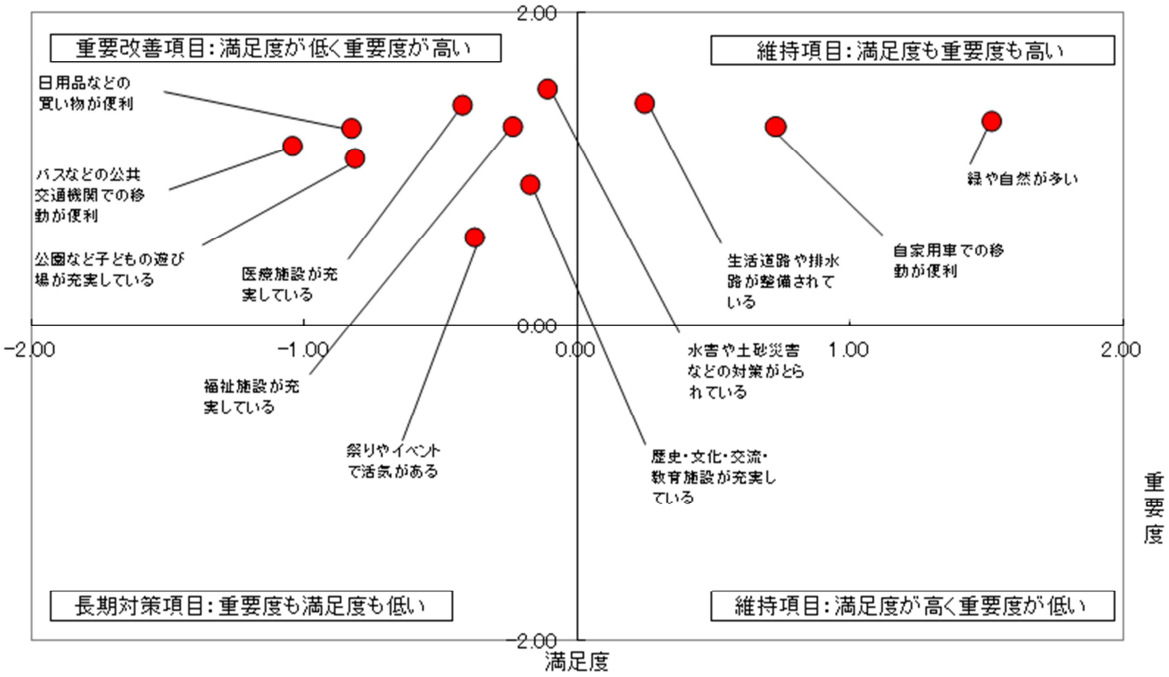
生活環境に対する満足度評価点



生活環境に対する重要度評価点

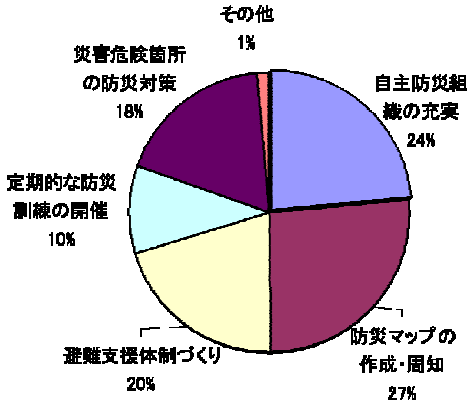


満足度と重要度の関係分析図



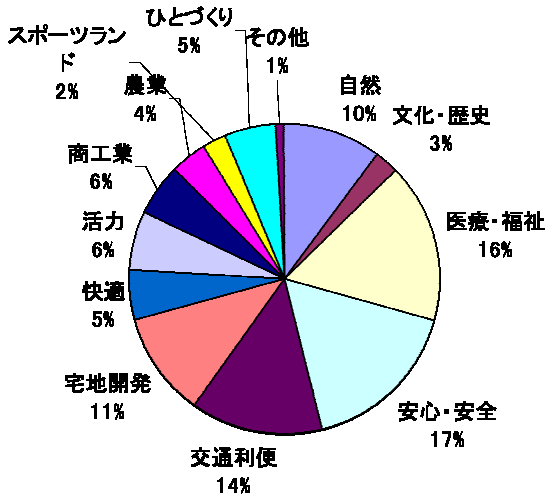
⑤地域防災について

○　地域の防災について、特に必要と思われることについてお聞きしたところ、３つの意見に分かれ、最も多い回答は「災害危険個所や避難方法を示した『わがまち防災マップ』の作成・周知」であり、次いで「自主防災組織の充実」、「要援護者の避難支援体制づくり」の順で多くなっています。



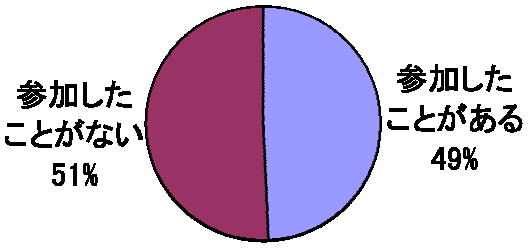
⑥将来あるべき姿のキーワードについて

○　今後、北地区のまちづくりをすすめるうえでのキーワードについてお聞きしたところ、最も多い回答は「安心・安全」であり、次いで「医療・福祉」、「交通利便」の順となっています。



⑦まちづくり事業への参加について

○　北地区で行っているまちづくり事業について参加の割合をお聞きしたところ、約半数が参加していました。



⑧まちづくりについての自由意見

○　主な自由意見は以下とおりで、その他にも多くのご意見やご要望があがっていました。これらの自由意見を全てカードにし、ＫＩＴ－ＰＴ法により図化して皆さんの意見を集約し、まちづくりの方向性を出しました。

・人口増や地域発展等のための市街化区域等線引きの見直しや開発

・良好なコミュニティの形成

・子どもの安全な遊び場の整備

・公共交通の強化

・買い物利便性の向上

・まちづくりへの若者の参加

（２）宮崎北中学生徒アンケート

平成 16 年度に実施した同様の生徒アンケート調査と今回のアンケート結果を比較すると下表のようになり、前回アンケートから交通環境が充実したことを生徒達が実感として感じていることがわかります。

	平成 16 年度	今回
欲しい施設	レジャー施設	レジャー施設
	道路	商店
	商店	公共施設
理想とするまち	自然豊かなまち	平和なまち
	美しいまち	活気あるまち
	平和なまち	美しいまち
どのような人が住むまち	モラル	モラル
	活気	活気

4．まちづくりの将来像と目標

4.1　北地区の将来像

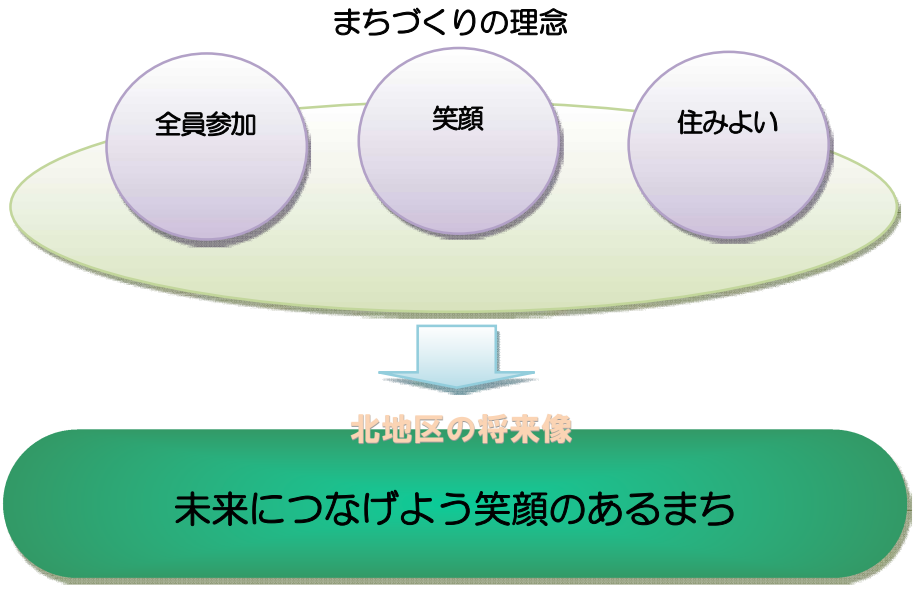
（1）まちづくりの理念

これからのまちづくりは、住民自らの手により行う必要があります。人口減少と高齢化が確実に見込まれる状況にあって、地域社会の持続可能な発展のためには、地域固有の特徴や資源を踏まえながらも、外に開かれた地域となることが必要です。そのためには、若者の新しい発想や活力を積極的に取り上げ、地域のみんなでまちづくりに取り組むことが大切です。

これからは、地域を構成する市民、団体、企業など、より多くの方々が自ら積極的に北地区のまちづくりに関わって頂き、それらの力を結集し行政と協働して、活力があり誰もが住みたい、住み続けたいと思う笑顔のある北地区をみんなで創っていきましょう。

（2）北地区の将来像

北地区の特性や資源、地区住民のニーズ、まちづくり課題等を考慮して、地区住民みんなが目指す将来あるべき姿を次のとおり設定します。

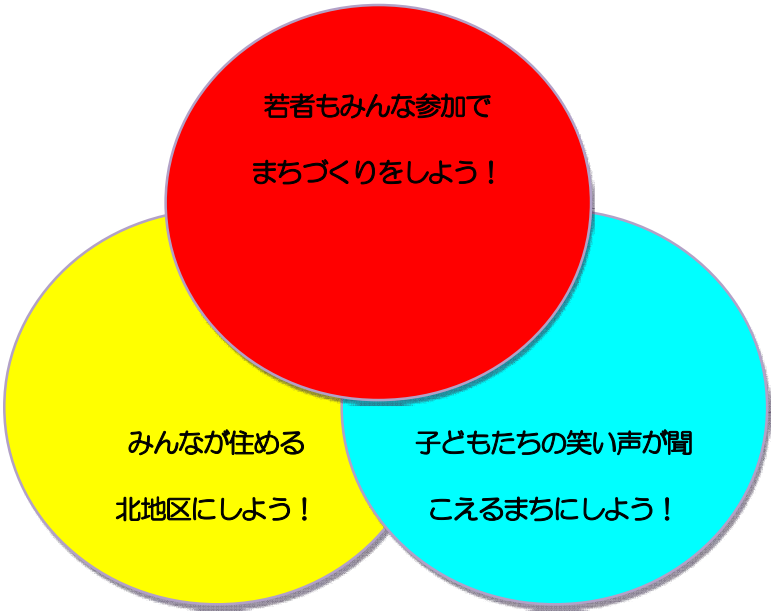


まちづくりの基本的考え方

北地区の歴史・自然などの資源を活かしながら、地域のみんながまちづくりに関わり、人口減少・高齢化の進展においても、公共交通の充実、買い物環境の整備、災害に強い基盤整備を進めるとともに、地域に必要な機能がコンパクトに集約されたまちづくりにより、笑顔のあふれるまちづくりを行います。

4.2　まちづくりの目標

北地区の将来像を実現するため、以下に示す３つのまちづくりの目標を掲げ、まちづくりを進めます。



（1）みんなが住める北地区にしよう！

住民が住みやすい基盤整備を行うとともに、地区計画の制度を積極的に利用して、周辺環境と調和した活気あるまちづくりに取り組みます。

① 適正な土地利用

現在の法制度の下、美しい田園環境を保全しながら、適正な誘導と有効利用により、ゆとりある空間を確保しながらコンパクトなまちになるよう努めます。

② 公共交通による交通手段の確保

地区の特性に合った公共交通のあり方について模索し、子どもや高齢者などみんなが容易に移動できる交通手段の確保を図ります。

③ 普段着で買い物できるまち

移動販売の活用など、子どもや高齢者などの交通弱者でも買い物などの日常生活に不便のない環境づくりを進めます。

④ 外に開かれたまち

地区住民同士のつながりを大切にし、相互に支え合う地域社会づくりに努めるとともに、地区住民のみならず、地区外から新たに入ってきた新規居住者が地区に入り込んでいきやすい仕組みづくりを行います。

（2）子どもたちの笑い声が聞こえるまちにしよう！

地区の未来を託す子どもたちの笑い声が聞こえるまちを目指し、誰もが安心・安全に暮らせる、住みたい・住み続けたいまちづくりにより、未来への希望が持てるまちづくりに取組みます。

① 地域ぐるみで子どもの成長を見守る

地域ぐるみで子どもの成長を見守ったり、お年寄りや障害のある人を支え合うなど健康で楽しく暮らし続けられるまちづくりを進めます。

② 子育て環境の充実

子どもが元気に遊べる公園整備など、子育て環境の基盤となる施設整備を進めます。

③　安全なまちづくり

犯罪や交通事故が起こらない安全なまちづくりを進めるとともに、火災・水害・震災などの災害を未然に防止し、災害から地区住民・地区を守る災害に強いまちづくりを進めます。

（3）若者もみんな参加でまちづくりをしよう！

今までまちづくりに参加する機会の少なかった若者世代の意見をまちづくりにとり入れることにより、住民自らの手によるまちづくりに取り組みます。

①　若者が参加できる仕組みづくり

若者や今までまちづくりに参加する機会の無かった人たちの意見を活かすための仕組みづくりを進めます。

②　持続的なイベントの開催

まちづくりの最初の一歩として、地区住民が一体となれるように、若者が参加に関心を示すようなイベントの開催などにより、交流の輪を広げ、地域の絆を深め、地域の活性化を図ります。